

333 ページもの厚いものとなった。胎動を始めた国内の宇宙新技術を感じさせるものである。(藤下 光身)

て——”を参照していただきたい。

(東京天文台天文時部)

1982年6月末日にうるう秒の挿入

国際報時中央局(BIH)は、協定世界時(UTC)に次のうるう秒を挿入する日時を1982年6月末日の最終秒UTCとすることを決めた。協定世界時に9時間を加えた日本の標準時(正しくは中央標準時と呼ぶ)において、JJY電波報時など通報される標準時の秒信号は、1982年7月1日に

$$8^h59^m59^s, 8^h59^m60^s, 9^h00^m00^s$$

と刻まれ、標準時が一齐に1秒間遅らされることになる。

UTCは原子振動にもとづいた原子時の秒を刻み、その時刻は地球の自転にもとづいた世界時(UT1)から±0.9秒を超えないように、うるう秒によって調整されている時系である。現在、UTCと国際原子時(TAI)との差はちょうど20秒であるが、1982年7月1日0時0分0秒UTから、そのつぎにうるう秒が実施されるまでは、UTCの方が21秒の遅れとなる。

また、1981年における地球自転速度の変動は原子時に対して約-2.16ミリ秒/日(=-0.789秒/年)であった。すなわち、UT1はUTCに対して年間、約0.8秒の遅れを示す。なお、BIHが決めた1982年1月0日(='81年12月31日)0時0分0秒UTにおけるUT1とUTCとの差は(UT1-UTC)=+0^s.0076である。もし、今後、地球の自転変動が昨年とほぼ同じ状態であると仮定するならば、今年の6月末日にうるう秒が挿入される直前のUT1は約0.4秒の遅れとなるが、その翌年の6月末日には約0.2秒の遅れが予想される。したがって、その場合にはうるう秒の挿入を半年間延ばして1983年12月末日に実施されるようになる。

なお、詳しくは天文月報、2月号(75巻、50頁)“最近における地球自転速度変動の傾向——うるう秒につい

お知らせ

山田科学振興財団研究援助候補推薦について

山田科学振興財団より学会あてに、下記内容の57年度分研究援助候補の推薦依頼がありましたのでお知らせ致します。

記(推薦要領抜粋)

1. 援助の対象: 自然科学の基礎的分野における重要かつ独創的な研究、特に学際的色彩を持つ研究に従事する個人又はグループ。
2. 援助の金額: 1件につき1千万円前後2千万円以内の援助(A)及び1件につき3百万円前後、5百万円以内の援助(B)を併せて10数件。
3. 援助の期間: 原則として1年。
4. 推薦件数: 1推薦者ごとに(A),(B)おのおの1~2件。

申請用紙を御入用の方は、学会庶務理事までお申し出下さい。申請書は、昭和57年10月10日までに学会あて提出して下さい。

なお、財団には下記の援助がありますので申請要領、申請書等御入用の方は直接

〒544 大阪市生野区巽西1丁目8番1号

ロート製薬株式会社内

山田科学振興財団 宛御申込み下さい。

援助名	募集開始	締切日
来日 (58年4月~59年3月分)	57年4月1日	57年11月30日
長期間派遣 (58年4月~59年3月分)	57年4月1日	57年11月30日
短期間派遣	出発月の4カ月前の15日が締切日(例:57年10月出発の場合57年6月15日が締切日)	
学術交流集会 (58年4月~59年3月分)	57年4月1日	57年9月30日

1982年3月の太陽黒点 (g, f) (東京天文台)

1	—, —	6	—, —	11	13, 81	16	9, 135	21	—, —	26	14, 83
2	14, 142	7	—, —	12	—, —	17	13, 146	22	12, 90	27	19, 125
3	13, 148	8	12, 105	13	14, 118	18	11, 126	23	13, 83	28	17, 125
4	13, 144	9	10, 83	14	12, 124	19	11, 123	24	15, 66	29	14, 119
5	10, 97	10	15, 102	15	—, —	20	—, —	25	13, 68	30	15, 148
(相対数月平均値: 176.0)										31	16, 106

昭和57年6月20日 発行人 〒181 東京都三鷹市東京天文台内 社団法人 日本天文学会
 印刷発行 印刷所 〒162 東京都新宿区早稲田鶴巻町251 啓文堂 松本印刷
 定価 300円 発行所 〒181 東京都三鷹市東京天文台内 社団法人 日本天文学会
 電話 三鷹31局(0422-31)1359 振替口座 東京 6-13595